

新島襄全集編集委員会編・同朋舎刊

# 新島襄全集

全10巻

## ■第1巻 教育編

解題・河野仁昭

わが国の近代教育の濫觴の時代に、先覚者の一人であった新島襄が抱きつづけたキリスト教主義にもとづく教育の理想と、その理想の実現をめざして苦闘した跡を雄弁に物語る教育関係草稿・諸記録など八〇余篇が、この巻に収録されている。また、彼の演説・論説草稿や「理事功程草稿」も、この巻に収録されており、新島の教育と学術に関する全容をとらえうる。

(発売中 六、〇〇〇円)

## ■第2巻 宗教編

解題・高橋 虔

教育者新島襄は、敬虔なキリスト者として、近代化の緒についたばかりのわが国で、ほぼ全国を伝道行脚し、また、キリスト教



## ■第3巻 書簡編Ⅰ

解題・杉井六郎

界の指導的役割を担った巨星でもあった。その新島の説教と宗教演説の草稿を中心に、一致・組合両教会の合併問題に関する意見草稿、みずから創設した京都第二公会の「録事」、聖書を学んだ跡をしめす史料等、第一四〇篇がこの巻に収録されていて、キリスト者新島襄の全貌を明らかにする。(発売中 七、〇〇〇円)

新島襄は書簡の人だといわれてきた。それは、彼にまとまった著述がなく、かつて書簡以外の史料が、あまり公にされなかったことにもよるであろうが、書簡において彼は、その思想や信条ひいては人間性を、もっとも自在に表現しえた、とみられるからで

(紹介)

あった。遺した量もまた豊富である。

彼の和文書簡は、従来約六八〇通が公刊されたが、この全集では新たに約二〇〇通を加えて、二分冊とした。

この巻には、嘉永五年に十歳の新島七五三太が、安中藩家老尾崎直紀に差出した書状にはじまり、明治二十年に至る約四〇〇通を収録する。

### ■第4巻 書簡編Ⅱ

解題・杉井六郎

明治二十一年から、四十七歳の生涯を閉じた二十三年一月までの約五〇〇通(年代不詳を含む)を収録する。

同志社大学設立のための募金運動に関する書簡が多いが、教育や伝道に関する書簡も少なくない。そしてこの時期、悲願を訴える新島の声はいっそう熱を帯び、真情の吐露はいっそう端的になり、たとえば「良心ノ全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」といった不朽の象徴的な名句が記されたのであった。

### ■第5巻 日記・紀行編

解題・河野仁昭

新島襄の処女航海の手記「玉島・兵庫紀行」にはじまり、最晩年の「漫遊記事」まで、彼の十六冊の日記・紀行類のすべてを、この巻に収める。従ってこの巻には、スリリングでドラマチック

な「函館脱出之記」「航海日記」などの他、伝道や募金運動のために全国を行脚した彼の旅行日記などが含まれる。人間新島襄を知るうえでも、これらは貴重な史料である。

この巻にはまた、新島が日記・書簡その他に書きとめた漢詩、和歌、俳句なども収録する。(発売中 七、〇〇〇円)

### ■第6巻 英文書簡編

解題・オーテス・ケリー

新島襄が実の父母のごとく慕い、また、その恩愛を生涯忘れることのなかったアルフィーアス・ハーディー夫妻に書き送った書信一〇余通など、合計三二〇余通の英文書簡を収録する。

これらの書簡によって、同志社およびプロテスタント・キリスト教界の現況、彼の信仰と信条、願望や苦悩などとともに、義理固い人柄の一面をも知りうる。また、明治初期の日本人が綴った英文史料としても注目されよう。(近刊)

### ■第7巻 英文日記・紀行編

解題・オーテス・ケリー

新島襄が遣米使節団の一員田中不二麿に請われ、彼とともに欧米の教育事情を視察した明治五(一八七二)年以降、帰国する明治七(一八七四)年までの間に記された三冊の日記・紀行をはじめとして、二度目の外遊中(明治十七・十八年)の六冊の日記・紀行ノートなど、十数点の英文史料をこの巻に収録する。恩人ハ

「デイリーのすすめ」で書いた「My Younger Days」や「アメリカン・ポーツ」に提示した「Schemes of the Speedy Evangelization of Japan」などもこの巻に収める。また、多数の自筆スケッチを添える。これらの史料は、「My Younger Days」を除いて、かつて公刊されたことがなかった。

■第8巻 補遺・雑纂編

解題・河野仁昭

補遺、断簡、学習ノート、募金関係史料、伝道関係史料、葬儀関係史料、民治・八重ら新島家史料、新島先生遺品庫収蔵目録、新島旧邸蔵書目録、文献目録、新島襄年譜、その他を収録する。新島の全体像を知る上で不可欠の史料だといえる。

■第9巻 来簡編

解題・杉井六郎

政界・財界・キリスト教界・教育界をはじめ、同志社関係者、教え子などから新島襄に送られた書簡を厳選して収録する。新島がかかわりをもった人物と、その交際の内幕を知りうるのみでなく、新島書簡と相互補完の関係をなすものである。

■第10巻 『新島襄の生涯と手紙』(訳)

A・S・ハーディー編著 解題・北垣宗治

編著者 A. S. Hardy は、新島襄の恩人アルフィーアス・ハーディー夫妻の三男で、大学教授であり、作家であり、外交官でもあった人で、新島とは兄弟のごとく交わった。

彼は、新島が両親に寄せた手紙や、父の求めに従って書いた「脱国の理由」、「青春時代」(My Younger Days)などの編纂を思い立ち、わざわざ調査のために来日するほどの綿密周到な調査をこれに加えて、新島永眠の翌年、明治二十四(一八九二)年に *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima* と題して、ボストンから上梓した。新島その人に、直接その生涯を語らしめようとしたこの書は、早くから新島を知る上で不可欠の文献とされてきた。訳者は北垣宗治教授である。

(四月発売)

- 《既刊》第1回配本／第1巻教育編・頒価・六、〇〇〇円
- 第2回配本／第2巻宗教編・頒価・七、〇〇〇円
- 第3回配本／第5巻日記・紀行編・頒価・七、〇〇〇円
- 第4回配本／第10巻新島襄の生涯と手紙(四月刊行)
- お問い合わせは同志社収益事業課(電〇七五―二五一―三〇三八)まで

## 新島基金による新島講座について

同志社創立百周年記念事業の一環として同記念事業寄付金の一部により新島基金が設立されました。

### ○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育、研究の国際交流を推進し、もって一国の良心たりの人材の育成に資することを目的とし、

基金の果実をもって (1)新島講座の開設 (2)新たな奨学制度の開設 (3)教育・研究の国際交流の推進などを行うことになっております。

### ○新島講座

新島講座は、つねに時代を先導する同志社の教育と研究が、更に一層充実、発展し、またその成果が社会の進展に寄与するようにと願って新島基金の目的事業の一つとして設立されたものであり、内外の碩学を招聘し講演会などを開催する講座と、本学園教職員がその研究成果を発表する東京講座の二種類を毎年開催することになっています。

### 第七回新島講座

昨年十月十五日(月)・十六日(火)・十七日(水)の三日にわたり、ロンドン大学(S O A S)教授、言語学部長、ロバート・ヘンリー・ロウビンズ博士を迎えて公開講座とセミナーが開催されました。ロウビンズ教授は、いわゆるロンドン学派の代表者として、ヨーロッパ及びアメリカを含めて世界的に言語学の研究に指導的役割りを担う言語学者常置国際委員会会長の要職にある碩学で、特に古典語に通じた広い視野か、今日の言語学を歴史的流れの中に位置づけを行い、また、英語教育との関係についても言語学者と教師の分担と役割りの明確な規定を行った大変有益且つ貴重な講演とセミナーでありました。

### セミナー

○テーマ・「言語学と外国語教育」

十月十五日午後四時―六時

於、同志社女子大学デントン館会議室

○テーマ・「言語学―現状と展望」

十月十六日午後四時―六時



於、同志社大学寧靜館会議室

公開講演会

○テーマ・「われわれは言語をどう捉えてきたか」

十月十七日午後一時三十分—三時  
於、同志社女子大学心和館三〇一番教室

二日にわたるセミナーにはそれぞれ八十名と六十名内外の参加者が熱心に討論を行い、殊に、現在のチョムスキーに代表される理論とアメリカの構造言語学の古典的存在とされるブルームフィールドの学問に対する科学的態度を鋭く対比し、後者の多言語に関する知識を基盤とした解析手法にも

価値を認める迫力あるロウビンズ教授の発言は、参加者に新しい興奮を呼んだ観がありました。

翌十七日の講演会は四百数十名の参会者を得て大教室は満員の盛況となった。同志社女子大学岡野学長の挨拶の後、同志社大学経済学部岡田妙教授の通訳で、ロウビンズ教授の最も得意とされるギリシャ時代から現代に至る言語観の変遷を辿る講演が行われた。言語に対する考え方が科学として発展した地域として、インド、古代ギリシヤ、中国、アラビアの四文化地域を挙げ、そのうち、インドとアラビアはサンスクリットやコーラン等の宗教的影響を受けて研究がなされたこと等、興味ある問題を提示し、ギリシャ・ラテン・ルネッサンス・近代—現代に至る各時代についてのロウビンズ教授の言語観を大系的に述べる博識の程に、また言語理論は複数の異なる立場を取り得るとする教授の見識に、参加者は深い感銘を受けた。予定された一時間年は瞬間に過ぎたが内容は誠に充実した講演をも

って盛合りに第七回新島講座を終了しました。

終わりにこの講座運営に御尽力下さった関係各位に対して厚く御礼申し上げます。昨年十一月十七日(土)東京・ヤマハホール(中央区銀座七丁目九—十四)にて新島講座第五回東京公開講演会が開催されました。

新島講座は、創立百周年記念事業として、新島襄を記念して一九七九年から開設された事業の一つで、立学の精神を基盤として現代にふさわしい教育、研究の幅広い交流を図り、わが国の学術・文化の進展に寄与することを目的としております。

新島講座には、内外の碩学を講師として京都・同志社に招聘して開催しているものと(九月・十月に開催、すでに既報済)同志社から講師を派遣して東京に開催の場を設けているものとの二つがあります。

十三時三十分から始まった講演会は、木枝総長代行のあいさつ、園部庶務部長の司会で大谷實同志社大学法学部教授、島尾永

康同志社大学工学部教授の順で行われました。

〔演題ならびに講師〕

○最近の医療問題

(安楽死、尊厳死、脳死他)と法律

同志社大学法学部教授

大谷 實氏

○新島襄と科学

同志社大学工学部教授

島尾永康氏

大谷實教授の講演(写真上)は、私達の

身近な問題でもある医療をめぐる法律問題をテーマに、医師と患者の関係の適正化、医療上の過誤と医療の責任、新しい技術が生んだ法律問題等これまでのいくつかの判例にもとづき解説され、また、医療機器の発達による生命維持治療の開発、植物状態と脳死状態、死への末期症状に対する治療と患者家族の義務に関する法律の見解について、そして、私達今一番関心のある脳死問題について、その提言として、問題の所在、過剰医療の回避、臓器移植等先生の研究成果が多く含まれた興味ある内容の講演



大谷 實教授

でした。

同教授の主要著書には、「刑事責任の基礎」成文堂、「人格責任論の研究」慶応通信、「刑事改正とイギリス刑事法」成文堂、「犯罪被害者と補償」日本経済新聞社、「刑法講義各論」、「刑法講義総論」、成文堂などがあります。

次に島尾教授(写真下)は、江戸幕府の軍艦教授所で学んだ新島襄の洋学は、数学を中心とする点に大きな特色があり、しか



島尾永康教授

も航海に必要な天測計算をおこないうる実用的レベルに達していたこと、渡米後、由緒ある名門高校、フィリップス・アカデミーに学ぶ新島は、解析幾何学と円錐曲線論を学びつづいて進化したアーモストカレッジでは、ルミス著の「解析幾何学・微積分学要綱」の教科書でついに微積分まで達し、新島がアメリカの大学の正規の課程を履修した最初の日本人であり、また正規の課程で微積分までの高等数学を学んだ最初

の日本人であったことを新島所蔵の教科書ノートから調べられ、帰国後同志社英学校設立とともに、科学教育にも力を注いだ新島を知るうえでの興味ある講演内容でした。

なお、同教授の主要著書には、「物質理論の探求」岩波書店、「科学の歴史」創元社、「ニュートン」岩波書店、訳書として、「キリスピー科学思想の歴史」みすめ書房、「ニュートン光学」岩波文庫などがあります。

これら新島講座の講演内容は、後日開催ごとにまとめ公刊し、同志社収益事業課で頒分いたしてあげます。

### 新島講座・講演内容公刊に ついて

- 「THE LIBERAL ARTS TODAY」  
アーモスト大学副学長  
フロッサー・ギフォード博士  
(第一回講座) 頒価七〇〇円
- 「STREAMS OF GRACE」

—STUDIES OF JONATHAN EDWARDS, SAMUEL TAYLOR COLERIDGE AND WILLIAM JAMES—  
ハーバード大学教授 リチャード・ラインホルド・ニーバー博士  
(第二回講座) 頒価一、三〇〇円

○「THE PROFESSIONALIZATION OF SCIENCE」  
—FRANCE,1770-1830,COMPARED TO THE UNITED STATES, 1910-1970—  
プリンストン大学教授 チャールズ・クルストン・ギリスピー博士  
(第三回講座) 頒価七〇〇円

○「CHANGING BRITISH VIEWS OF JAPAN SINCE THE 19TH CENTURY」  
ロンドン大学(SOAS)教授・日本研究所長 ウィリアム・ジェラルド・ビーズリー博士  
(第四回新島講座) 頒価未定

○「環境と法律」  
—ハーヴァード・ロー・スクールで教えて—  
元同志社大学法学部教授・現東京大学法学部教授 藤倉皓一郎  
(第一回東京講座)

○「時間と人間の経済活動」  
同志社大学経済学部教授 榊原胖夫  
(第一回東京講座)  
○「白砂を訪ねて」  
—鳴き砂の秘密—  
同志社大学工学部教授 三輪茂雄  
(第二回東京講座)

○「縁起絵巻の世界」  
—日本人の信仰に関連して—  
同志社大学文学部教授 笠井昌昭  
(第二回東京講座)

○「財閥の家憲と華族の家憲」  
—とくに財産管理について—  
同志社大学商学部教授 安岡重明  
(第二回東京講座)

○「新島襄全集をめぐる」  
—新島襄と仏教徒たち—  
学校法人同志社社史資料室室長 河野仁昭  
(第四回東京講座)

○「同志社ラクビーとともに」  
同志社大学文学部教授 岡 仁詩  
(第四回東京講座)  
各冊子とも頒価五〇〇円

発行者・学校法人同志社  
取扱い・同志社収益事業課  
(電話〇七五—二五一—三〇三七〜八)